

- 7 番 富 田 受付番号第6号、質問議員7番、富田陽子。
- 件名1 「さくらの湯の利用者増加を」。
- 件名2 「小中学校体育館に空調設備を」。
- 1、健康福祉センター内のさくらの湯は、浴室に運動浴室（プール）が併設された近隣では珍しい貴重な施設である。水泳教室や親子連れで楽しむことができる有意義な施設である。一方で、近年の燃料費高騰や施設の老朽化の改修等により赤字幅が増えていることから、今後、安定的に運営していくために新たな利用者層を開拓し、利便性向上が必要と考え以下の質問をする。
- (1) 令和7年4月に利用料金が改定されたが、利用者数や収入への影響は。
- (2) 利用者をさらに増やすための新たな取組は。
2. 児童・生徒の熱中症対策として普通教室への空調設備は整ったが、近年の猛暑を踏まえ、災害発生時において地域の避難所としても利用される小中学校体育館にも空調設備が必要であると考え、質問をする。
- (1) 断熱対策と併せて空調設備の導入に取り組む考えは。
- 議 長 答弁願います。
- 町長 町長。
- 町 長 それでは富田陽子議員から「さくらの湯の利用者増加を」、「小中学校体育館に空調設備を」についての御質問をいただきました。
- 初めに、1点目の「さくらの湯の利用者増加を」について、1番目の御質問の「令和7年4月に利用料金が改定されたが、利用者数や収入への影響は」についてありますが、さくらの湯は、平成16年4月のオープン以降、20年以上が経過する中で施設の老朽化に伴う修繕費等の支出が年々増加傾向にあることから、令和5年4月、さらに令和7年4月に大人は100円ずつのアップ、子ども・障がい者は据置きとし、現在大人2時間600円、子ども・障がい者は200円の設定となっております。
- 令和7年4月以降、7月末までの4か月間の利用者数と収入ですが、利用者数は2万6,372人で、前年の同期間と比較して94.9%、収入は985万2,000円で91.5%でした。利用者数、収入ともに前年の同期間を下回っておりましたが、収入については改定と同時に発行した町民限定無料券や、回数券の駆け込み

購入により、令和6年度2月までの月当たりの平均売上げの56万5,000円に対し、3月のみで449万円の収入があったことが大きく影響しているものと分析をしております。

回数券の利用については、時間の経過とともにその利用が落ち着いてくれば、前年度比で増収に転じるものと考えております。一方、前年同期間の利用者数の減少の理由については、料金改定の影響を受けてのことなのか、雨天によるハイキング帰りの利用減など天候に左右されたことによるものなのか、現時点では判断し難いため今後も注視していきたいと考えております。

次に、2番目の御質問の「利用者をさらに増やすための新たな取組は」についてでありますが、これまで町内外の利用比率について正確な把握をしておりませんでしたが、利用者にアンケートを実施したところ、町内利用者が15%、町外利用者が85%であることが分かりました。このため、町民の利用を促すべく料金改定と同時に本年4月のお知らせ版に、町民限定の無料券を2枚印刷して配布いたしました。発行枚数に対する利用率は約9%で、やや低かったという印象ですが、今後も、年一、二回程度無料券を発行し、PRと同時にリピートしてもらえるよう努めていきたいと考えております。

また、さくらの湯は山北駅と特に土日は親子連れでにぎわう鉄道公園に近く、同じ料金で入浴と運動浴槽が季節に関係なく利用できるということが大きな強みです。この強みを生かすため、ハイキングで本町を訪れる方へのPRとして、さくらの湯のホームページで直接閲覧できるようにハイキングコースのモデルコースをアップしたり、町民向け無料券や親子向け割引券の発行を行ったり、近隣の比較的従業員数の多い企業の福利厚生としての利用を検討していただくよう働きかけをすることで、利用者の増加を図っていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「小中学校体育館に空調設備を」についての御質問の「断熱対策と併せて空調設備の導入に取り組む考えは」についてであります。よりよい環境の中での教育活動が行えるよう、小中学校の普通教室及び特別教室へ空調設備の設置や、体育館には大型扇風機、スポットクーラーの導入などにいち早く取り組み、さらに体育館への空調の設置についても検討を進めてきたところです。

急激な、気候変動による気温上昇により、夏の盛りとなる7月と8月に夏季休業があるとはいえる、特に最近は5月に始まり10月に落ち着くというような暑さの長期化といった、これまでの常識が通用しない厳しい暑さに学校現場も対応に苦慮している現状があります。

このような状況に鑑み、国は学校体育館を対象とした令和15年度までの臨時的補助事業として、「空調設備整備臨時特例交付金」を令和6年12月に創設し、これを受けて町では交付金を活用して整備をするための検討に早急に着手し、県との相談等を踏まえ、財源確保や手続の確認・準備を行ってきました。

なお、この補助金については、空調設備と併せて令和15年度までに断熱対策を施すことが交付要件になっています。断熱対策については、資材・工法の技術進歩の動向を踏まえながら、最適な効果が得られるよう今後も調査・検討を継続し、まずは「空調の設置」を第一に据えて事業を進めていく考えであります。

また、川村小学校については、長寿命化改修工事も控えていることから、一部工事が並行して進んでいくこととなり、児童の学校生活、行動範囲に一定の制限が生じることもあるかと思いますが、安全を最優先に学校の負担とならないよう配慮しつつ、工事を進めていきたいと考えています。

さらには、災害発生時には避難所としても機能させる必要があります。そのためには、動力源を電気またはガスにするなど、様々な視点に立った検討が必要ですのでスピード感を持って準備を進めてまいります。

議長　　富田陽子議員。

7番富田　それでは、再質問をさせていただきます。

まずは、「さくらの湯の利用者増加を」についてですけれども、今回質問した理由としましては、通年の2回の料金改定したことによって施設の老朽化による修繕費がアップしていることが大変気になっております。ここ数年、燃料費高騰とか施設の老朽化で全国的にこういう温浴施設というのは、料金の値上げですか閉館するというところが増えております。プールも浴室も利用する一人として、さくらの湯がなくなつてほしくない。そして、これ以上料金アップをしてほしくないという思いで、今回質問させていただきたい

と思います。

改めて、今回料金改定に至った支出の大きな要因について、改めて伺いたいと思います。

議長 保険健康課長

今回、令和5年に改定をした後、その2年後の7年4月に再度の改定をさせていただいたという理由でございますが、やはり修繕費、それからスタッフの人工費の高騰、燃料費の高騰、電気代の高騰といったことに対応するために、赤字をできるだけ圧縮していく必要があるということから、再度の改定をさせていただいたというものです。

そして、令和6年度の決算の話となりますけども、収入が令和6年度、利用料ですかコインロッカーですかタオルの売上げなんか含めて3,700万ほどあったんですけども、かかっている支出は4,900万円ほどということで、1,000万円以上の赤字は出しているというところで、やはりここは圧縮をしていかなければいけないというところから改定をさせていただいたというものです。

議長 7番 富田

令和6年度でもざっと1,200万の支出のほうが多いという金額ですけれども、支出が大きい幅というのは年々増えているのでしょうか。

議長 保険健康課長

5年に改定をさせていただいた、7年に改定させていただいた、7年の改定の赤字の圧縮というのはこれから分かることなんで、まだ今の時点で何とも言えませんが、5年に改定をさせていただいた効果は出ていて、4年度までの赤字の額よりは縮まっているという状況ではあります。

議長 7番 富田

そうしますと、料金改定の効果が見られていると考えていいと思うのですけれども、今後の見通しを考えますと、ますます施設の修繕費とかもう少し増えていくのではないかと危惧するんですけども、そこら辺はいかがでしょうか。

議長 保険健康課長

おっしゃるとおりで、日々細々とした修繕というのはもう発生してるわけ

なんすけども、一番懸念するのが、施設ができてもう20年以上たっていませんが、一度もボイラーなんか交換をしていない。そこを交換するとなると、普通に考えれば1,000万はすぐ飛んでいってしまうような話になつて、それが2基ありますので、いずれ交換しなくてはいけない時期が来るかと思います。ですので、修繕費それから工事費というのは、普通に考えればもうどんどん上がっていくというふうに考えてございます。

議長　富田陽子議員。

7番富田　修繕費に加えて、やはり人件費ですか燃料費もこれからも下がっていくとは考えにくいくことなので、全てにおいての支出が上がっていくのかなと思うんですけども、支出で削減できるところというのはあつたりするのでしょうか。

議長　保険健康課長。

保険健康課長　赤字を圧縮するのは歳入を増やすか歳出を減らすかということになり、歳出を減らすほうもやっていかなくてはいけないのですが、正直申し上げますと歳出を圧縮していくのは結構限界にきてるかなというふうに思ってます。頑張って、例えばスタッフの受付する一人の時間帯をできるだけ長く取って、人件費を圧縮したりとかということはやってるんですけども、そもそも最低賃金が上がったりですか、あと会計年度任用職員さんにもボーナス支給したりとか地域手当支給したりということもあつたりして、1万円圧縮できても10万円増えてしまうみたいなところがありまして、あとそれから電気代ですか燃料代も節約して温度を下げるというわけにもいきませんので、ある意味固定費的なところがありますので、なかなか支出について、もちろん努力は続けていきますが、結構限界にきてるのかなという考えがあります。

議長　富田陽子議員。

7番富田　町の施設ですので、町の全体で赤字幅を補填していただいているという状態だと思うんですけども、そうなると収入をやっぱり増やすしか考えられる方法はないのかなと思うんですけども、今の回答でいただいた内容ですと、町民の方にもっと利用してもらうためにも利用券を2枚お知らせ版に印刷して、利用者を増やそうという取組をしていただいたんですけども、その結果は約9%ということで、思ったよりも利用者数が増えないのかなという感

じがするんですけれども、そこら辺の手応えはいかがでしょうか。

議長 保険健康課長

9%という数字は、無料券を発行したときに目標の設定みたいなのを定めていて、それに比べて低かったということではなく、目標の設定はそもそもしていませんでしたので、無料、ただということを考えたときに9%、10分の1以下だったというのは低かったなという、あくまで印象です。

あと町民の御利用についてなんですけども、何といいますか、20年も経過している施設で、さくらの湯が健康福祉センター内に存在があるということを知らない町民ですとか、聞いたこともないという町民はおそらくそんなにいないと思うんです。ただ、ほかのスーパー銭湯には行くのにさくらの湯には行かないというような、ちょっと行く機会がなかったみたいなそんなところがあるのではないかというふうに思いましたので、まずは無料、ただだったら来てくれるのではないかという、そういう発想から今回出させてもらったということです。

その結果9%で低かったかなという感じなんですけども、一度やったことで低かったから諦めるということではなく、何回かチャレンジしていくといいかなと。無料券ですので、さくらの湯の収入にはなりませんから年に何回も何回もというわけにはいきませんけども、回答書にもありますように年に一、二回程度そういったことで取り組んで、まずは知ってもらって来てもらって、知ってもらって、来てもらったら小さいけどプールもあるし、サウナもあるし、意外と近くでいいじゃないかということを分かってもらえば年に何回かでもリピートしてもらえるようになれば、町民の利用も高まってくるのかなというふうに考えているところでございます。

議長 富田陽子議員。

7番 富田 利用者にアンケートを実施したところ、町内利用者が15%、町外利用者が85%であることが分かりましたという回答があったんですけども、これ以上に、例えば何割ぐらいの方が親子連れでここに来られているかとか、あとは水泳の教室なんかもそこで開催されてますので、水泳教室として利用されているのは全利用者の何割かとか、そういう分析みたいな把握はされているのでしょうか。

- 議長 保険健康課長 保険健康課長。町内が15%で町外が85%というのは、券売機の横に簡単な正の字を書くアンケートを置かせてもらって、来た人に町内だったら正の字書いてもらうという、そこで今集計してるんですけども、今おっしゃられた親子連れて来られた方ですとか、水泳教室で運動浴槽を使われてる方の集計というのはしようと思えばセンターのほうで出せますので、ただいまそれはしていませんので、今後料金改定に当たっての参考とするためにその辺の集計はやっていきたいと思います。
- 議長 7番 富田 富田陽子議員。どんな方がどんな機会、どういうタイミングで来られるとか、そういう分析をもうちょっと細かくすることによって、利用者増加というのを促せるかと思うので、もう少し細かい把握をお願いできたらと思うのと同時に、あと赤字が解消するまではいかなくとも、目標の入場者数、例えば1日何人以上とか、月に何人という目標者数というのはありますでしょうか。
- 議長 保険健康課長 保険健康課長。目標者数を定めているということはないのですが、過去の年度ごとの利用者数を見ますと、もっと多かったときで平成27年度で9万1,000人、これがピークでした。そして、令和6年度は約7万8,000人ですから、それを考えますとまだまだ増やせるなというふうには思ってございます。
- 議長 7番 富田 富田陽子議員。今後どんどん支出が増えていくということを考えますと、もう少し具体的な入場者の目標設定とかを決めて、それを売上げがどれだけ追いついているかというところももう少し把握したほうがいいのではないかというふうに考えます。
- 今回この質問をするに当たって、町内外の方にどんなときにさくらの湯を利用するか、またはさくらの湯のいいところはどんなところかというのを意見を聞きました。さくらの湯のいいところというのは、「プールの後にお風呂に入れるというところが最高」ですとか、あとは「子連れでおむつが外れていない子でも気軽にに入る」とか、「サウナもあって休憩所もあって、公共施設としてはかなり設備が整っているところ」というのがいいところだと

思うとか、「水風呂が冷たい」とか「休憩室のお水、お茶ありがたい」とか、そういう声がありました。あとは、どういうときに利用するかということも伺ったんですけれども、「畠仕事の後に汗を流したい」とか、あと子育てしている方だと「大人が疲れたときにゆっくりしたい」とか、あとは「子どもが行きたいと言ったタイミングでさくらの湯に行きます」といったような声を聞きました。

逆に、行かない、行ったことないという方の理由を聞くと、「知り合いに会いたくない」ですとか、あとは「足が悪くてお風呂に入れるかちょっと不安だ」という声があつたりして、なかなかさくらの湯ができるから町民の方でも1回も入ったことないという方もいらっしゃいました。

やはりこういう声を町としても詳しく聞いて、さくらの湯の今後に生かせてていっていただきたいなと思うんですけれども、もう少し声を拾うアンケートなりそういうのを実施してはいかがかなと思うんですけれども、そこら辺はいかがでしょうか。

議長 保険健康課長。

保険健康課長 ありがとうございます。

早速、さくらの湯の休憩室にさくらの湯に対する希望みたいな、要望みたいなものを設置して、来られた方にもっとこういう施設が、設備があつたらいいのではないかですかとか、こういうところが足りないのではないかとか、ここはよかったですとか書いてもらえるようなことができるような場があれば、こちらとしてもそれを参考に予算を使うべきところを充てられるというようなことにもなるかと思いますので、センター長とも相談した上で近日中に始めたいかなと思います。

議長 富田陽子議員。

7番 富田 新しくできたスケートパークも、QRコードでアンケートを実施されてますよね。それでその利用者の御意見を伺ったりしていますので、そういうアンケートの方法もあるかなというふうに思います。

収入のアップとして利用者を増やすこと、あとは単価を上げることというのが考えられるかなと思うんですけれども、利用者を増やす取組として回答の中でもありますけれども、私も考えるさくらの湯のいいところとしては、

やはりプールと運動浴場が併設されているところ。あとはこの立地条件ですね。駅前だということ。あとは鉄道公園があつたり、同じ建物内に子育て支援センターがあるというのも大きな強みだと思います。

あと、ほかには規制が緩いというところも大きな利点かなというふうに思っています。体にマークがある方も入れますし、あとはおむつしている乳児も水遊びのパンツを着用すれば入れるというのが大変いいところだと思うんです。夏休みの川村小学校の開放プール、あのプールですと水遊びパンツを着用してもおむつを外れてない子はそのプールに入れないんです。南足柄市のプールでもおむつが外れていない子は入れないとなっているんですけど、さくらの湯は入れる。やっぱそこはほかの施設と違ういいところだと思うんです。

なので、ターゲットというかもう少し利用者数を増やすために、子連れが入りやすいような施設だということをもっと大きくうたえると思いますし、もう少しいろんな、例えば脱衣場にベビーベッドを設置するとか、あとはもうベビーバスを設置していただいてますけれども、さらに浴室に子ども用の椅子とか洗いおけを設置して、子連れでも気軽に入れますよということを大きくうたっていくと、鉄道公園があり土曜日も子育て支援センター開設していただきましたので、1日駅周辺で子育て、例えば土日子どもを遊ばせることができる場所になるのではないかと思うんですけども、そこら辺いかがでしょうか。

議長 保険健康課長

保険健康課長 ありがとうございます。

回答書のほうに、ハイキングコースのモデルコースなんかはさくらの湯のホームページに直接アップしてということが書いてありますけども、今おっしゃられたことは確かにさくらの湯の強みになるかと思いますので、その辺の何といいますかPRの仕方がちょっと確かに下手だったなと思うところはありますので、今回のハイキングコースをアップするということを取り組んでいくつもりですから、それと併せてその辺についてもアップできるようにしていきたいなと思います。

あと、それから洗い場の子ども用の椅子ですとか、洗いおけですね。その

辺はそんなにお金がかかるものではないので、それはもう今の既存の消耗品の予算の中で十分対応できると思いますから、そこはすぐにでも対応、取り組んでいきたいと思います。

議長　富田陽子議員。

7番富田　2階には子育て支援センターがありますので、そこのおもちゃとかベビーベッドをさくらの湯の休憩室ですとか、脱衣所に置いたりですとか、あとは支援センターもしくはでごにいスポーツハウスとか、鉄道公園とかそういうところにさくらの湯がありますということをPRするポスターなんかも必要ではないかなと思います。やっぱそういうふうな誘導をして、知らない方も知ってもらうという取組が重要ではないかなと思います。

あとはプールですね。プールですと御殿場市のプールでは浮き輪の無料で貸出しがあったりします。水深が浅い場所というのも設けられていて、安全に子どもと一緒に楽しむことができるという部分もあるので、そういった何か大きく改修をしなくとも、小さなところで子どもと楽しく遊べるというところができるのではないかなというふうに考えます。

もう一つは、先ほどハイカーへのPRということを言ってましたけれども、やはりハイカーも利用者増の取組として可能性があるところだなというふうに私も考えています。ハイカーにやはりPRするには、私は谷峨駅からハイカー上ってきて山北駅に降りる方もいらっしゃるので、谷峨駅にポスターを貼るとか、御殿場線内で宣伝をするとか、もう少しそういうような周知も必要ではないかなと思うのですけれども、そこら辺はいかがでしょうか。

議長　保険健康課長。

保険健康課長　承知いたしました。PRはできるだけ努めていきたいと思います。我々も気づかないところが多々ありますので、そういった御指摘はいつでもしていただければありがたいなと思います。

なお、浮き輪ですけども、8月20日からそんな話もありましたので、今既に無料の貸出しへは行っているところです。

あと、それから谷峨駅の前の掲示板みたいなものがあるのですけども、そこに一応ポスターは貼ってあるのですけれども、あまり目立たないかなと思いますけども、そういうののももっと目立つようにとかいうことはやってい

きたいなと思います。

議長　富田陽子議員。

7番富田　ハイカーと子育て世代の方の利用者アップというところで、隣町の小山町の温泉施設を見てみると、最近料金が300円もアップして900円になったんですね。それでもかなりお客様がぎわっていました。それはなぜかなというふうにちょっと見てみたときに、やはりそこで食事ができるというところが大きな強みではないかなと思いました。やはりどこか観光してとか、その後に御飯と夕飯とお風呂というのがやっぱりセットで、そこで楽しんであとは家帰って寝るだけというのがとても楽なのではないかなと思います。

さくらの湯ですと、ともしびショップが17時45分までは利用できますけど、夜の夜間帯というのはなくなってしまうので、やはりハイカーがおなかすかせてお風呂入って空腹でとか、あとはプールを利用した後ってやっぱりどうしてもおなかがすくので、そこで軽食が食べられたり、あとはアルコールが飲めたらやはりそこで一杯休憩室で飲めたら楽しいのではないかと思うんですけど、その収入率としては微増かもしれないけれども、そういう販売物を置くことで収入もアップするかなと思うんですけども、そこら辺はいかがでしょうか。

議長　保険健康課長。

保険健康課長　確かにおっしゃるとおり、休憩室は持込みが自由になっているのですが、実際ともしびショップが夕方までは内線電話をすれば休憩室まで食事を持ってきてくれるのですけども、それ以降はともしびショップもやってないので、食べるところがないというのが現実であります。今役場の3階にカップ麺とかパンの自動販売機がありますけども、その設置を休憩室に検討していくかなと思ってます。

ただ、設置に当たっては役場内部の規定がございますので、それに合致するような形で検討を進めていくのですぐにというわけにはいかないかと思うのですが、自販機の設置をちょっと考えていきたいなと思ってます。ただ、今ジュースの自販機はありますけども、その売れた収入というのは社協の収入になってますので、直接の収入にはならないんですが、ただ利用者数が増えればさくらの湯としての収入にはなりますので、自販機の設置なんかも考

えていきたいなと思います。

議長　富田陽子議員。

7番富田　さくらの湯も観光客とか登山客の玄関口の一つとして捉えれば、本当はお土産なんかも売るスペースがあつたら一番いいのではないかなと思いますけれども、そこまでできなくてもせめて軽食とか食べられればいいのかなとうふうに考えます。

あと、御意見いただいた中で多かったのは、やはり登山客とかハイカーの方からもう少し料金を多く取ってもいいのではないかという声もあるのですけれども、町内の方と町外の方と料金を分けるという、そういったお考えはありますでしょうか。

議長　保険健康課長。

保険健康課長　今回アンケートを取った結果、町外が85%であったということを考えると、前回料金改定をさせていただいたときにも同じ話があったかと思うんですが、収入を増やすという意味では差をつけるというのは一つの方法かとは思っています。ただ、ここで4月で改定をしたばかりで、次の改定までにはしばらく時間を置かなくてはいけないと思いますので、次の改定までにどうするのかというのは検討は進めていきたいとは思っています。ただ、今の段階としては料金に差はつけないほうが選択としてはベターなのかなというふうに考えてございます。

議長　富田陽子議員。

7番富田　無料券を配布するというふうにはありますけれども、やはり町内の公共施設で町民の方の利用者が15%で、あとは町外利用者が85%ということで、やはり差をつけてほしいという町民の思いというのはあると思うんです。なので、例えば回数券で1枚プラス町民の方が多いとか、そういった工夫で町内の方が利用しやすくなったり、町民の方が差がついていると感じられるところがあるかなと思います。

あとは、もう少し例えばですけどアルコールと入浴券セットで、ちょっと高めの、高めではないですけれども例えばセットで1,000円とか、そういう券があればそこが収入アップにつながるのかなと思います。そういうところも含めて、町民の声を聞いて検討していただけたらと思います。

町長に伺いますけれども、町長はさくらの湯の経営とかについてどうお考えでしょうか。

議長 町長。

町長 基本的に、例えば町内と町外を分けるというのは私は賛成しておりません。ということは、要するに言ったのを信じるのか、何か証明書を出すのか。町民ですよというのがお風呂みたいなああいうところでは非常に難しいというふうに思ってますので、私としてはむしろ15%しかいない町民でしたら、もう限りなくゼロにしたっていいのではないかぐらいのつもりでいますので、それはやはり無料券とかそういうようなもので対応していただければいいのではないかなと思っております。

大体月平均で6万人から7万人ぐらい来ております。しかも大体月の平均がほとんど同じで、一番低いのは1月です。ですから、私としてはせいぜい8万ちょっとぐらいが人数的には限度なのかなというふうに思ってます。実際にいる人いっぱい知ってますけど、すいてる時間を狙うんですよ。だから2時とか3時とか、そういう時間に行ったりします。お昼とか。つまり、混んでる時間を外すというようなのはほとんどリピーターですよ。ですから、そういうようなことがあります。

金額的にはコロナの時期は下がりましたけど、今3,000万ぐらいから3,500万ぐらいいってますので、最高いっても4,000万ぐらいかなというふうには思っております。ですから、そういったようなことをやっていったらどうかなというふうに思ってますし、今実際に割引券とかも出しておりますけど、聞いたら、例えばゴルフ場に行って朝からプレーして、お昼にさくらの湯に入つたやるという人もいるそうです。ですから、やはりこういうような温泉施設というのはほとんどが自分のお風呂代わりにショッピングセンターとして来るのがほとんどだというふうに思ってますので、やはり自分が行って気持ちよくお風呂に入つていただいて帰つていただくというのが私は一番いいのかなというふうに思ってます。

私なんかもしょっちゅういろんなとこ行きますけど、やはりそういった中ではあまり料金のことは気にしないで、やはりお風呂の泉質であるとか、混んでる・混んでないというようなことが一番大事になりますので、そういう

た意味で、やはり町民とほかの人を分けるとかそういうようなことよりも、リピーターがしっかりと根づいて、そして我々としては適正な料金を頂いて運営ができるといふことが一番大事かなというふうに思ってますので、当然修繕とかいろんな物価が上がってますので、そういった値上げはやむを得ないというふうには思っておりますけど、我々としてはそういうようなことを経費節減も含めてこれからもしっかりとやっていきたいといふうに思ってます。

議長　　富田陽子議員。

7番富田　　大体入っているのはリピーターの方が多いのかなというのも、私も実感としてありますけれども、やはり町民としては、これ以上の今後さらなる支出が増えていったとしても、料金をこれ以上上げてほしくないなというのが希望ですので、リピーターの方がもっとリピートしてくれるような仕組みをぜひ取り組んでいただきたいなと思います。

町民に今回御意見聞いたときに、こうしたらしいのではないかという御意見をいただいた中では、温泉の温度が熱過ぎるからもう少しぬるくしてゆっくり入りたいとか、あとは駅周辺に薬草園があったことがあるそなんでも、今も三保のほうに薬草園が元ありますけれども、そういう薬草風呂にしてみたりとかそういう御意見もいただきました。ぜひ、いろんな方の意見を聞いていただきたいなというふうに思います。

二つ目の質問に移りたいと思います。

「空調設備の導入に取り組む考えは」ということで、前向きな御回答をいただけましたけれども、検討を早急に着手し、県との相談等を踏まえ財源確保や手続の確認準備を行ってきましたとありますけれども、具体的にいつ頃導入したいとか、そのような計画はありますでしょうか。

議長　　こども教育課長。

こども教育課長　　空調設備の設置の時期の御質問だと思うのですが、町長の答弁にありましたとおり、設置に当たりましては国の交付金を活用することを考えております。ですので、交付金のスケジュール、また交付金の採択の可否にその時期が大きく影響することとはなるのですが、来年度以降、早いタイミングで設置できるように、小中学校同時に設置できるようにということで準備を進め

ております。

議長　富田陽子議員。

7番富田　来年度から準備を進めていただけるということですけれども、小学校のほうは長寿命化の計画も進められてると思いますが、もうそこは時期的にも、工事内容的にも、あとは金額的にも同時進行でいいのかどうかというのは危惧しますけれども、そこら辺はいかがでしょうか。

議長　こども教育課長。

こども教育課長　川村小学校の長寿命化工事につきましては、本定例会の終了後の全員協議会で改めましてスケジュールのほうは御説明させていただきたいと思います。

議員さんおっしゃるとおり、長寿命化の工事を待った後設置ということも考えられるのですが、町長の答弁にありましたとおり、最近の猛暑への対策というのは待ったなしだと思ってますので、同時進行となっても工事のほうは進めていきたいというふうに考えております。

議長　富田陽子議員。

7番富田　早急にしていただけるということで、大変ありがたいことだと思います。まずは、現在の暑い日の対応というのはどのようにされているか伺いたいと思います。

議長　こども教育課長。

こども教育課長　答弁のほうにあるとおり、それぞれの体育館にまず大型扇風機が設置されております。それに加えて、中学校のほうにつきましてはスポットクーラー2台を導入しております。

暑い日の対応につきましては、まず小学校におきましてはＷＧＢＴ、暑さ指数ですね。こちらのほうを測定しまして、規定の数値以上であった場合は体育館の使用を禁止しております。それ以下であったとしても、扇風機を設置したりと、あとは窓を全開にしたりして対応するとともに、水筒を持参していただいて、小まめな水分補給を行っているところになります。中学校も同じような対応となっております。

議長　富田陽子議員。

7番富田　そのような対応を今現在していただいているということですけれども、W

ＧＢＴの値というのは、例えば今年の夏ですと超えた日は結構あったのでしょうか。

議長 こども教育課長。

こども教育課長 回数については確認していないのですが、基本的には31という数字が出た場合は、特に子どもの運動はもう中止すべきというふうな指針が示されており、そういった数値が出たときは体育館の使用を中止しております。実際、今年度中止した回数がちょっと幾つあったかというのは、すみません。今ちょっと把握しておりません。

議長 富田陽子議員。

7番 富田 今年の夏もかなり猛暑が続いたので、ぜひ早急に設置をお願いしたいというところなんんですけども、ちなみに近隣ですと、松田町は今年度小学校の体育館への導入が予定されています。中井町では来年度、小中3校の体育館に導入が予定されています。大井町はもう既に導入されていて、開成町だと中学校の体育館に現在設置が完了されたというので話を伺ったんですけども、職員室から運転の操作ができることができるということと、あとは1時間で体育館が冷えるというので大変快適だというふうな声を伺いました。なので、山北町もぜひ続いていただきたいなと思います。

具体的なところをちょっと伺いますけれども、小中学校の体育館は災害時に避難所としての利用もありますけれども、災害時に電気が使えない場合でもそういう空調設備というのが使えるような設備というのもあるかと思うんですけども、そういうのも検討の範囲に入っているでしょうか。

議長 こども教育課長。

こども教育課長 災害時の対応についてだと思うのですが、まず空調設備の動力源につきましては、電気のほかガスということも考えられます。まず、それぞれメリットとデメリットがあるのですが、まず電気につきましては設置コストが安い反面、停電時に稼働ができなくなる可能性があるということがあります。一方で、ガスにつきましてはガスタンクを外に設置する必要があることから、多少設置コストが上がるというデメリットはあるのですが、自らガスの燃料を使って発電することができますので、電気が止まっても自律運転が可能になります。さらに発電を行いますので、その避難所、体育館の中にあるコン

セントに電気を送ったり、非常用の電気に電気を送ることができるというふうなメリットがありますので、それらのデメリット、メリットをしつかり精査した上で、どういった動力源を導入していくかということを検討していくたいというふうに思っています。

議長　　富田陽子議員。

7番富田　　検討していただけるということで、前向きな検討をお願いしたいと思います。

現在、文科省によると、令和7年5月現在では東京都は92.5%の設置状況に対して、神奈川県では14.6%という低い数字なんです。ですので、神奈川県は全国的には22.7%という設置状況だということなので、山北町も早い時期に設置していただけることを期待しまして、質問を終わらせていただきます。

議長　　保険健康課長から。

保険健康課長　　さくらの湯の町長とのやり取りの中で、1か月7万人という話でした。1年でございます。